



2団だより (活動トピックス)

発行責任者：団委員長 池澤 榮次郎

団本部：鶴林寺 宝生院内 (団HP bs.kakogawa2@yahoo.co.jp)

— 「親切」について — 団委員長 池澤 榮次郎

スカウトのおきての第四は「スカウは親切である」です。

親切とは、「相手の身になって、その人のために何かをすること、思いやりをもって人のためにつくすこと」とあります。

スカウトはいつも周りに気遣う心を持ち、人の力になることを心がけましょう。動物や植物にも優しい心を持ちましょう。そして報い(お返し)を求めません。

ボーイスカウト(BS)がイギリスで誕生して間もない1909年のこと、一人のアメリカ人が霧の濃いロンドンの街で道に迷ってしまった時、一人の少年が目的地まで道案内をしました。アメリカ人がお礼のチップを渡そうとすると、その少年は「私はスカウトですから何ももらいません」と言いました。

親切な少年の行動に感激したこのアメリカ人によって、1910年アメリカにもBSが誕生しました。

スカウトにとって「親切」は「日々の善行」につながるとても大事なことです。



BS 一人前カルタ

—各隊の活動・トピックス—

○ ビーバースカウト(BVS)隊

「BVS 9月の活動」 BVS隊長 中住 直哉

9月は台風が多く、判断にも悩まされましたが、なんとか計画通り活動を実施することができました。

9月2日はプレゼント作り。加古川2団では、毎年クリスマスの時期にデイサービスを訪問させて頂いています。今年は、おじいちゃんおばあちゃんに手作りゲームをプレゼントできればと考え、ビーバー



カラフルなお魚づくり・・・です



お魚ためし釣り・・・うまくつれるかなア

のみみんなで魚釣りゲームを制作しました。ユニークな魚?がたくさんでき、早速、出来栄を試してみましたが、「もっと大きな絵がええんちゃう?」「クリップはもっと大きい方がええわ。」「セロテープで止めないとはずれる。」など、スカウトたちから、たくさんの立派な改善案も出てきました。



「ごくろーさん」

9月23日カントリー（缶取り）大作戦。これはごみを拾って街をきれいにする、ボーイスカウトの全国的な取り組みです。今回は5つのグループに分かれ、鶴林寺周辺でゴミ拾いを行いました。パンなどの個包装の袋が風に飛ばされていたり、ペットボトルが転がっていたりと、気になるゴミを拾い集めました。途中、多くの方に「ごくろーさん」等と声をかけて頂きました。

9月30日は、団キャンプに向け、シュラフ（寝袋）の取り扱いの練習を行いました。スカウトはみんなシュラフが大好きです。シュラフを広げると、皆一斉にイモムシになって大騒ぎ。とても楽しそうです。片付けは一苦勞。畳んで丸めるまではできるのですが、袋が小さいためなかなか収まりません。手伝いに来てくれたお兄さんたちに教えてもらいながら練習しました。キャンプ本番もうまくできるかな？ 10月以降は、団キャンプの他、ふれあいの祭典、ツーデーマーチ、若い夢フェスティバルなど様々なイベントにも参加させて頂く予定です。みんなで元気に楽しみましょう！



はじめてのシュラフ・ウキウキ

○ カブスカウト（CS）隊

「隊加古川の町探検」 CS隊長 田上利広

9月16日は加古川町探検を行いました。鶴林寺から加古川駅に全員で徒歩にて移動。隊長から昔の加古川駅の写真を見ながら駅舎についての説明をうけたあと組毎に課題の地図を基に10カ所の史跡巡りを行いました。（コースは加古川観光協会ええとこマップから隊長が選んだ場所）



ここが称名寺（加古川城跡）です

組集会で加古川市内の地図を勉強した甲斐があり、スムーズに各ポイントへ到着。

リーダーからポイントの説明を受けました。加古川城跡の称名寺や、うだつの上がる家、胴切れ地藏など、加古川に住んでいても行ったことのない場所が多く、加古川の歴史にふれることができました。残暑の厳しい日でしたがみんな元気に課題もクリアし、ゴールすることができました。”



春日神社の夫婦銀杏

○ ボーイスカウト (BS) 隊

「ジャンボリー派遣隊の解隊式 ～永遠の友情～」 BS隊長 中田 直文

先月号に続き、第17回日本ジャンボリーのトピックを投稿します。9月22日(土)、派遣隊の解隊式が尾上公民館にて執り行われ、当団から7名のスカウトが出席しました。解隊式に先立ち、スカウトはスライドショーを觀賞し、思い出話に花を咲かせました。

ジャンボリーは1個隊40名のユニットで参加します。

当団スカウトは、明石、加古川及び高砂の各団から選考されたスカウトで構成される派遣隊に所属し、計2回の訓練キャンプ、そして本番(6泊7日)の長期キャンプで苦楽を共にしました。キャンプ生活では、班の仲間との間で役割分担をしてお互い協力することで責任感や友情が育まれます。さらに各班は当番制で、水汲み、排水処理、食材や薪の受け取りなど、お世話役を果たすことで日ごとの隊の連帯感も生まれます。猛暑の過酷な環境の中、さまざまなスカウティングに挑戦した参加者のチャレンジ精神に対し、心からエールを送りたいと思います。



解隊式の様子

また、ジャンボリー最大の目的として国内外スカウトとの交流があります。現地ではフィリピンから参加したスカウト2名を受け入れ一緒に行動しました。英語がしゃべれなくとも心は通じ合い、意思疎通が図れました。4日目の夜には、東京三鷹の団をサイトに招き入れ交流会を実施しました。関東 VS 関西の乗りでスタンプを披露したことなど、楽しい思い出は言い尽くせません。これら貴重な体験はスカウトにとって大きな財産であり、仲間との友情が永遠に続くことを願ってやみません。

次回のジャンボリー(4年後の2022年)はスカウト運動100周年を記念し、東京で開催されると聞いています。今までにない「都市型ジャンボリー」が予想され、色んな意味で期待度大です。次回も多くのスカウトが参加できるよう、日々の活動を積み重ねていきたいと思っています。



東京団との交流会



団を越えた絆

ボーイスカウト活動に関心のある方・入隊を希望される方は、団HP(「ボーイスカウト加古川第2団」(検索))のメールでアクセス頂くか [団本部 鶴林寺宝生院 電話 079-422-6064](mailto:info@scout2kagawa.jp) へお問い合わせ下さい。見学・体験入隊はいつでも可能です。

ボーイスカウト加古川第2団では、君の入隊をまっています。